

今日のトピック インドの金融政策（2016年12月）

政策金利は据え置き。ただし、金利低下継続で経済回復へ

ポイント1 政策金利は据え置き

- 12月7日の金融政策委員会（MPC）でインド準備銀行（RBI、中央銀行）は、市場予想に反し、政策金利（レポ金利）を6.25%に据え置きました。
- ブルームバーグ調査では、44人中据置き予想は僅か8人で、他36人は利下げを予想していました。

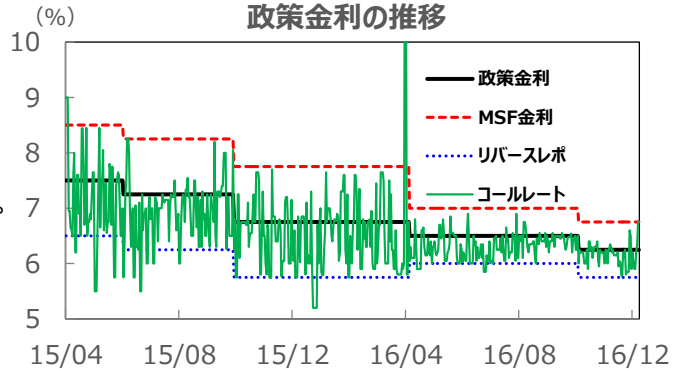
ポイント2 金利は既に下落基調

- 従来のRBIの金融緩和政策に加え、11月8日に発表された高額紙幣廃止による銀行預金急増により銀行の運用対象である国債利回りが急低下し、あわせて貸出金利が低下しています。
- 一方、12月14日にはFOMC（米連邦公開市場委員会）が予定されており、利上げされればインド経済への影響が見込まれます。
- 以上から、RBIは現時点で金融緩和は必要無く、状況を見極めたいと判断したと思われます。

今後の展開 高額紙幣廃止の混乱は収束に向かい、経済成長は回復へ

- 今回のMPCでRBIが預金急増にともなう銀行の過剰な流動性を抑制するために導入した一時的な支払準備率の引上げ措置を12月9日に終わると発表しました。同時に、RBIは2017年3月期のGVA（粗付加価値）成長率見通しを+7.7%から+7.1%へ下方修正しました。ただし、10-12月期

政策金利の推移

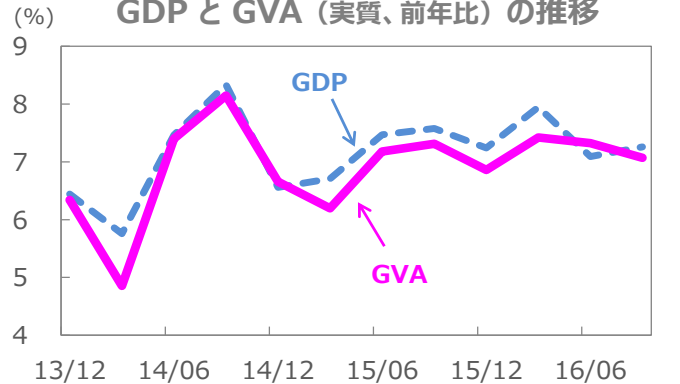


(注1) データ期間は、2015年4月1日から2016年12月7日。 (年/月)

(注2) MSFとは、Marginal Standing Facility（貸付ファシリティー）の略で、コールレートの上限と見なされます。

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

GDP と GVA（実質、前年比）の推移



(注) データ期間は、2013年12月から2016年9月。 (年/月)

GDP = GVA + (間接税 - 補助金)。

(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

にかけて大きく鈍化した後、来年1-3月期にかけて持ち直すことを予想しています。これらを併せて考えるとRBIは、高額紙幣廃止の混乱は年度内に収束すると見込んでいると思われます。金利低下により企業の資金調達が活性化し、インドの経済成長回復の要因となりそうです。

ここもチェック! 2016年12月 2日 最近の指標から見るインド経済（2016年12月）（インド） 2016年11月 14日 高額紙幣廃止、着実に進むブラックマネー撲滅（インド）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。